

健やかで、安らげるまち。



第4次小山町
総合計画から

①

健康づくり

誰もが安心して健康に過ごせるまちを目指して、医療費の助成や医療機関との連携、医療体制の充実を図ります。

疾病の予防は、乳幼児から高齢者まで、それぞれに応じた健診制度を体系的に充実させて、早期発見・早期治療に努めることが大切です。

町民皆さんの健康増進のために、特定健康診査の受診率向上や地域で



2



3

- ①交通安全・防火パレードで火の用心を呼び掛ける
- ②健康フェスタのはいはいグランプリの出走を待つ赤ちゃんたち
- ③明倫地区体育大会での玉入れ
- ④三世代ふれあいの日でチームを応援する園児たち

支えあう福祉

の健康づくりを支援します。
また、小学校区ごとの医療機関を継続して確保し、誰もが安心して医療を受けられる環境の充実を図ります。

医療の発達、平均寿命の伸びとともに、小山町でも高齢化が進んでいます。平成23年度末の65歳以上は4,746人で、高齢化率は23・5%



4

なっています。また、要支援・要介護者数は増加していて、介護予防の必要性が高まっています。平成23年度末の要介護認定者数は723人で、介護保険制度施行当初に比べて約2倍になっています。要介護認定者数がさらに増えていく中で、要介護状態とならないための健康づくりや生きがいのある生活を送ることができる体制づくりを推進していきます。

小山町では平成21年度に「第3次小山町障害者計画」と「第2期小山町障害福祉計画」を策定しました。障がいのある人もない人も、互いに

人格と個性を尊重して支えあう社会の実現を目指しています。

安心して育てる

未婚化・晩婚化の進行や出生率の低下から少子化が進んでいます。中学生までの医療費の無料化や保育制度の充実、放課後児童クラブの整備、ファミリーサポートセンター事業の推進など、仕事と子育ての両立支援をして、子どもを生み育てやすい環境をつくっていきます。

災害に強い まちづくり

小山町は、過去、昭和47年、54年、57年の台風災害、そして平成22年9月8日には、台風9号に伴う時間雨量100mmを超える集中豪雨による災害で、河川の氾濫、決壊による住宅・農地被害、道路崩落、土砂崩れなど、これまで幾度となく大きな被害をこうむってきました。こうした過去の経験と、小山町の地理的条件を踏まえ、災害に強いまちづくりを進めます。一人ひとりの防災意



識を高めて、町内にある40の自主防災組織の育成や、助け合えるコミュニティづくりに取り組み、自主防災組織、消防団、自衛隊、消防署と連携して充実した防災訓練を実施します。

また、計画的な治山治水事業や急傾斜地における土砂災害対策を推進していきます。防災マップの作成、全国瞬時警報システムの導入や各戸に配布されている防災行政無線の整備に努めます。

安心して 暮らす

小山町では平成14年に施行された「小山町生活安全のまちづくり条例」に基づき、小山町生活安全のまちづくり推進協議会を設置し、町民、地区防犯団体、警察などと連携を図っています。

また、交通安全の面では広域観光地であることから、町外のドライバーが交通事故の第一当事者になる割合が高く、流入車両に対する交通安全対策が必要になっています。

地域の実情に合わせた交差点の改良や歩道の設置、道路標識やカーブミラーなどの整備を推進します。

小山町の消防と救急業務は、ごみやし尿処理と同様に、御殿場市・小山町広域行政組合で行っています。御殿場消防署には高さ36mのハシゴ付き消防ポンプ車をはじめ、化学消防車や水槽車などの特殊な車輛を配備し、24時間体制で町民の生活を守っています。町内には小山消防署と須走分署があり、火災や救急に備えています。

- ① 消防出初式に参列する女性消防団「ふじにご隊」
- ② 町内幼稚園・保育園で行われる交通安全教室
- ③ 登校時に交通安全を呼び掛ける街頭指導
- ④ 訓練中の消防職員



BEFORE AFTER

おやま今・むかし



【バスが行く】

昭和36年4月17日に撮影された春の小山町。場所は、佐野川バス停から一色バス停に登る国道246号（現在の県道沼津小山線）の道路わき。題名は「バスが行く」。写真の説明には、「小山町観光協会 準特選作品」とあります。

現在の国道246号が開通する10年以上前で、バスの形、かやぶきの家、着物姿の女性などが50年の歳月を物語ります。

撮影者は、一色の鈴木仁さん。カメラは「ミノルタA5」と記録されています。



現在の写真と比較すると、道路の両側には歩道が設置され、電柱が立ち並んでいます。バス会社は現在も同じ「富士急行」。1時間に1～2本が運行されています。

INTERVIEW

町民インタビュー



小見山 ^{きみ お} 公男さん
と ^{と み こ} 都美子さん（桑木）

『子どもを育てるには
最高の場所』

オスとメスの区別もできずに始めたホタルの飼育。インターネットや、足柄小学校の小原教頭先生（当時）にも教わりながら育ててきました。今では、自宅横のビオトープに4～50匹のホタルが飛び交い、町外からも多くの人が見に来てくれます。「冥土の土産に見に来た」なんて言う人も。この取り組みを通じ、人と人のつながりのすばらしさを実感しています。

小山町は、首都圏からのアクセスも良く、水と緑が豊かで、子どもを育てるには最高の場所です。たくさんの人が訪れ、良さを知り、住んでもらいたい。そのための情報発信の重要性も感じています。

小山町子どもたちには、もっと自然の中に入って、どんな環境でも生き抜くたくましさを持ってほしいと思います。金太郎のように！



平成24年3月、町でも生涯学習センターの多目的広場北側に、「ホタルの里」を整備しました。専門家の指導の下、小山町建設業組合の皆さんがボランティアで作業に参加。ホタルの幼虫が生息できる環境を整え、幼虫を放流しました。6月中旬には、第1号のホタルを確認しています。